



海外先進施設調査報告

独立行政法人国立科学博物館

展示部常設展示・巡回展示課

常設展示担当 長澤 牧子

2026.7.8

目次

- ・ 01 はじめに
- ・ 02 CASE- 1
- ・ 03 CASE- 2
- ・ 04 さまざまな博物館の工夫
- ・ 05 まとめ



01

はじめに

国立科学博物館の展示担当部署

展 示 部

常設展示・巡回展示課

常設展示担当

博物館サービス担当

巡回展示担当

企画展示課

特別展担当

企画展担当

主な業務と今回の調査の目的

◆ 主な業務

- ・ 常設展示のメンテナンス、常設展示に関する企画
- ・ 研究者との調整
- ・ 常設展示改修の計画・実施（直近：日本館南翼 1 階）

◆ 今回の調査の目的

- ・ 常設展示改修を行うにあたり、さらに
「様々な来館者が利用しやすい博物館」にしていくため、
海外の博物館の動向を調査

調査内容

◆ 調査内容

- ・ 博物館の定義（2022年ICOMプラハ大会）

「誰もが利用でき、包摂的であって、
多様性と持続可能性を育む場所」

→ インクルーシブな取組にフォーカスし、調査を実施

◆ 調査対象

- ・ フランス（パリ）、イギリス（ロンドン）の各博物館
→ 比較的コンパクトな空間に、実物資料を工夫し展示。
規模としても参考になるものが多い。

調査内容・対象

フランス

シテ科学産業博物館

国立自然史博物館

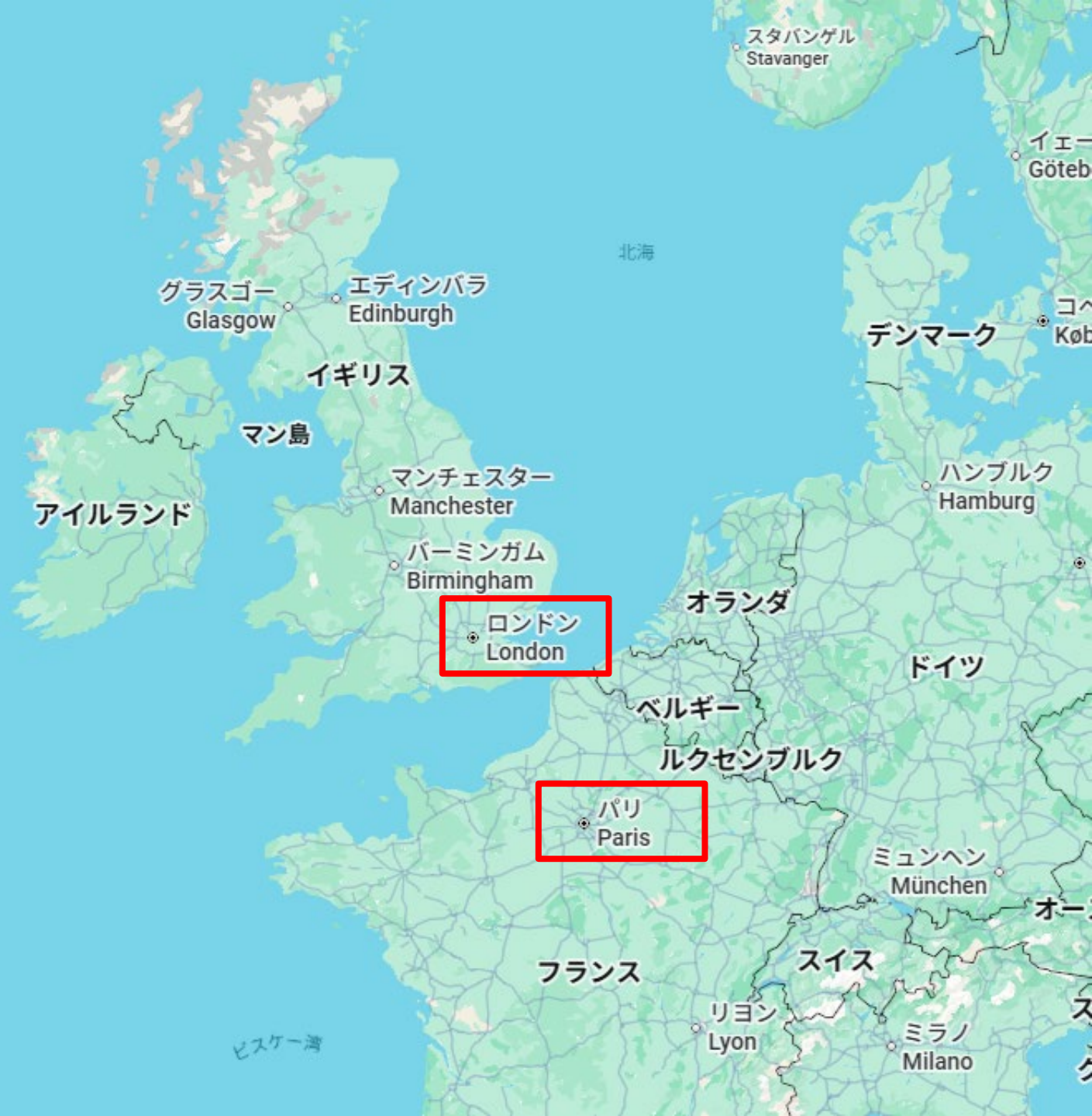
イギリス

大英博物館

ロンドン自然史博物館

など...

2025.7.28-2025.8.2



調査内容・対象

◆ 主な調査項目

- ・ 展示室のアクセシビリティ
- ・ インクルーシブ・デザインの手法
- ・ センサリーマップ、カームダウンスペース、その他の工夫
- ・ 多言語、各年代別の対応、館内ガイドの種別
- ・ 科学系博物館ならではの工夫
- ・ 実際の運用方法、維持費、館内職員の運営体制方法



02

ケース 1 : シテ科学産業博物館
CITÉ DES SCIENCES ET DE
L'INDUSTRIE

シテ科学産業博物館

CITÉ DES SCIENCES ET DE L'INDUSTRIE

- ・ 1986年に開館
- ・ パリの北部（19区）
ラ・ヴィレット公園内に位置
- ・ パリの中心部より地下鉄約20分
- ・ 建物ー5層
地上3階・地下2階
- ・ 屋外展示
大型シアターのラ・ジオード
潜水艦のアルゴノート
- ・ 入場料 €15



シテ科学産業博物館 CITÉ DES SCIENCES ET DE L'INDUSTRIE

(1) アクセシビリティ

博物館は「来館前」から

- ・ 地下鉄最寄駅からの案内
- ・ 入館前、入館後の案内
(触知図、展示案内、模型)
- ・ レジストル
「Register accessibility」

出典： Register accessibility (https://www.cite-sciences.fr/fileadmin/fileadmin_CSI/fichiers/ma-citeaccessible/_documents/Documents_a_consulter/REGISTRE-UNIVERSCIENCE-accessible.pdf)



シテ科学産業博物館 CITÉ DES SCIENCES ET DE L'INDUSTRIE

（２）展示・什器の工夫 「同時に・一緒に」使用できる

- ・多言語（仏・英・西）表示
- ・目・耳・手で同時に伝える
- ・一つの什器が複数の役割

これらは「手段」
なんの手段か？

博物館が「伝えたいこと」を
あらゆる人に伝えるための手段

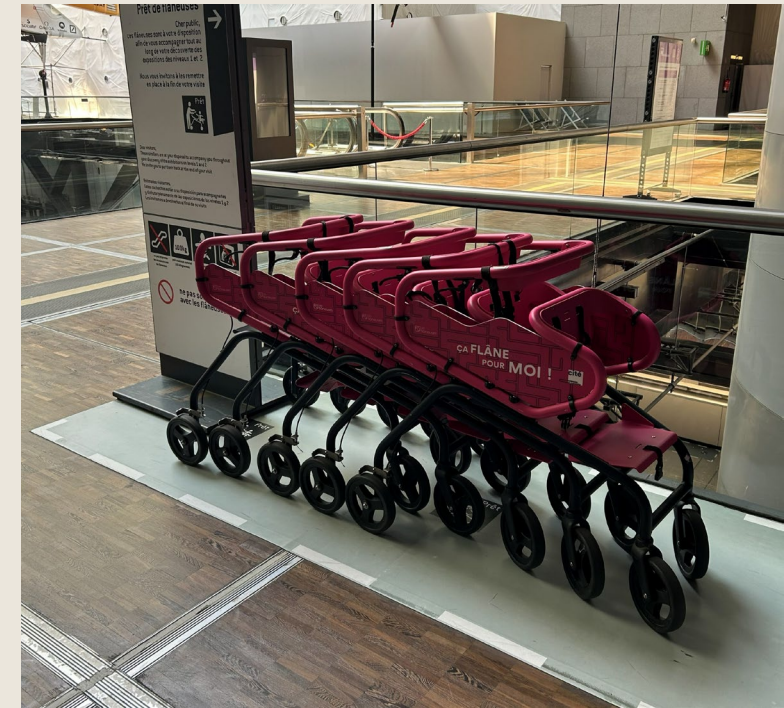


シテ科学産業博物館 CITÉ DES SCIENCES ET DE L'INDUSTRIE

(3) 館内ツール・設備

- ・ 多目的ストローラー
- ・ どこでも座れる簡易椅子
- ・ カームダウンスペース

使い方は一通りではない。
あらゆる来館者があらゆる使い方
をすることを想定。



シテ科学産業博物館

CITÉ DES SCIENCES ET DE L'INDUSTRIE

- ◆ これらの取り組みは、既に10年前には少しずつ行われている。
- ◆ 一つの展示を作るために、構想をふくめ、約2年の期間を要する。
- ◆ インクルーシブ対応のためのチームを編成しており、10人程度で構成。インクルーシブに特化した専門家のほか、さまざまなバックグラウンドを持った職員で構成している。
- ◆ 新しい展示を作る際は、常にインクルーシブの観点を考慮している。

展示を作る際に、大切にしている観点は、
「together（一緒に）」ということである。

利用者層（ターゲット層）は意識するものの、
特定の人にとって使いやすいものを作るのではなく、
あらゆる人が一緒に、同時に使用できることが重要な観点である



03

ケース 2 : 大英博物館

The British Museum

大英博物館

The British Museum

- ・ イギリス・ロンドンにある人類の歴史・芸術・文化を専門とする国立博物館

- ・ 1753年設立

- 1881年分館→自然史博物館

- ・ 入場料：無料

- (寄付受入、MAP販売あり)

- ・ 建物 3フロア8層の複雑さ

- Lower Floor(-2,-1)

- Ground Floor(2,1,-1,0)

- Upper Floor(5,4,3)

科博の導線
誘導問題
解決のヒント？



大英博物館

The British Museum

センサリーマップの体験

・日本でも近年センサリーマップを作成している博物館は多い。

→大英博物館の事例を例にしている博物館も多いと思われるため、実際に体験することとした。

引用：大英博物館センサリーマップより

https://www.britishmuseum.org/sites/default/files/2023-11/British-Museum-Sensory-Map_2023.pdf



◆ センサリーマップの冒頭の案内

Welcome to the British Museum. You can use this sensory map to identify sensory-friendly spaces in the Museum. Please keep in mind that, as the Museum's building and exhibitions change regularly, parts of this map may not be up to date on the day of your visit. The temperature varies as you move through the Museum and some galleries and spaces can be quite warm or cold. You may want to bring a bottle of water and extra layers of clothing to put on. Please note, you enter the Museum on the ground floor – see page 4

大英博物館へようこそ。このセンサリーマップを使って、博物館内の感覚に優しいスペースを見つけることができます。ただし、博物館の建物や展示は定期的に変更されるため、このマップの一部はご来館当日に最新でない場合があります。博物館内を移動すると気温が変わります。一部のギャラリーやスペースはかなり暑かったり寒かったりすることがございますので、お飲み物（水）や上着を持ってくることをお勧めします。なお、博物館の入り口はグラウンドフロアです。（4ページ参照）

（参考和訳：長澤）

大英博物館

The British Museum

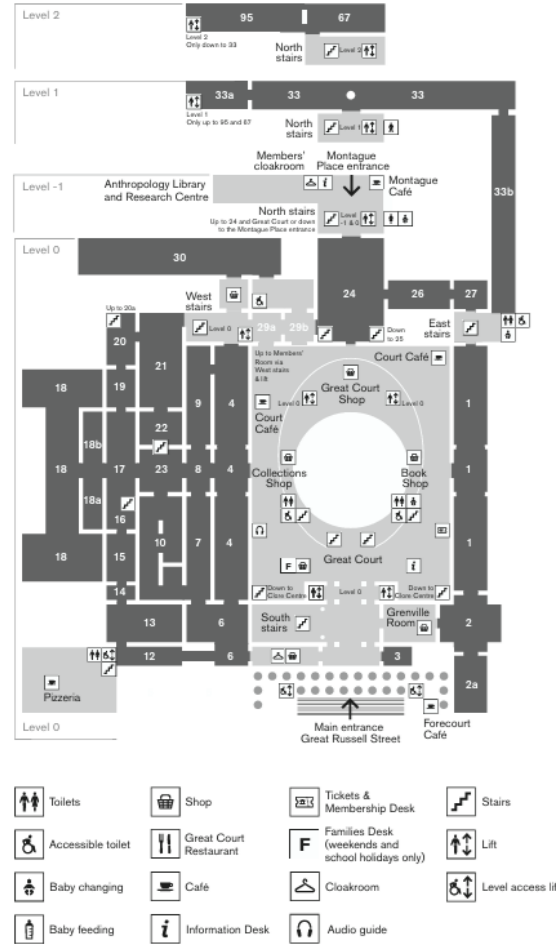
センサリーマップの体験

- ・通常の館内案内と対になるかたちでセンサリーマップを作成。
- ・モノトーンとカラーでわけることにより、視覚的にもわかりやすい。
- ・センサリーマップには、センサリーマークのみ記載

引用：大英博物館センサリーマップより

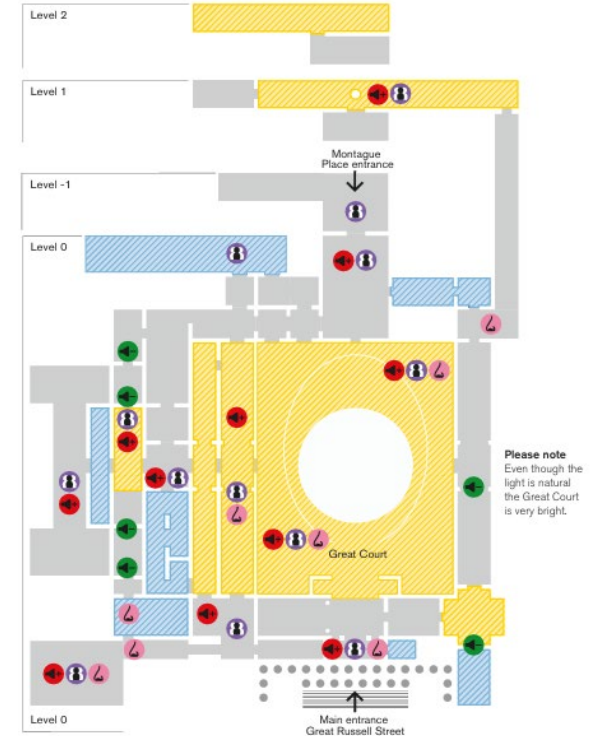
https://www.britishmuseum.org/sites/default/files/2023-11/British-Museum-Sensory-Map_2023.pdf

Ground floor



4

Ground floor – sensory map



5

大英博物館

The British Museum

6つのセンサリーマークとその場所の状況

- ① Noisy spaces にぎやかな場所（音が大きい場所）
- ② Quieter spaces 静かな場所（音が小さい場所）
- ③ Crowded spaces 混雑している場所
- ④ Strong smells においが強い場所
- ⑤ Natural light 自然な光の場所
- ⑥ Lower or subdued 低め・控えめな照明の場所



Noisy spaces



Crowded spaces



Natural light



Quieter spaces



Strong smells



Lower or subdued



大英博物館 The British Museum

- ◆ 「混雑」 ・ 「においが強い」 ・ 「にぎやかである」

→ カフェ、食堂、メインエントランス、ロゼッタストーンなどの有名な展示物のまわりなど、人が多く行きかう場所。

- ◆ 「控え目な照明」 ・ 「静かな場所」

→ 絵画・仏像等の展示のため照明を落としている箇所、また観覧者もゆったりと鑑賞している場所であることが多い。

- ◆ 「にぎやかである」 ・ 「混雑」 ・ 「控え目な照明」

→ ミイラの展示など、その博物館のメインの展示の一つであり、多くの人が行きかい、会話が飛び交っているため、にぎやかであるが、展示物の性質上、暗くする必要がある場所

- ◆ 「混雑している」のみ → 通路など

大英博物館 The British Museum

- ◆ 一つだけ当てはまる場所があれば、複数のセンサリーの組み合わせもある。
- ◆ 必ずしもその組み合わせが一致するわけではない。
- ◆ 博物館のセンサリーマップを作成する場合
その博物館の特徴に合わせたセンサリーマップを
複数の職員・関係者が、実地調査を行いながら作る必要があること。
- ◆ 必ずしもセンサリーマップのみですべて解決できるわけではない。
さまざまなお客様を迎える配慮、まずは「WELCOME」な気持ちが必要

大英博物館

The British Museum

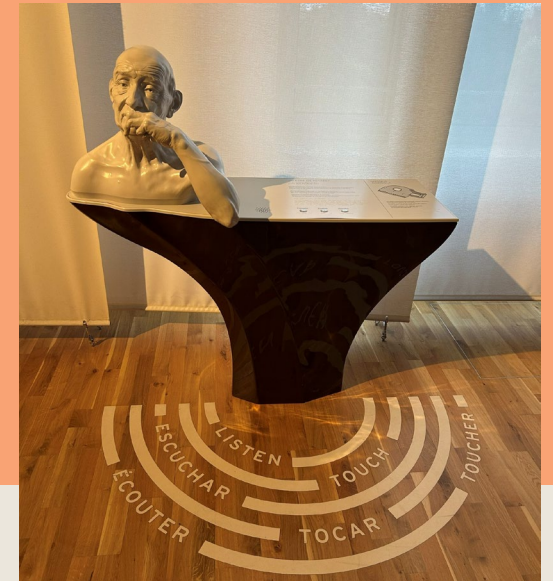




04

さまざまな博物館の工夫

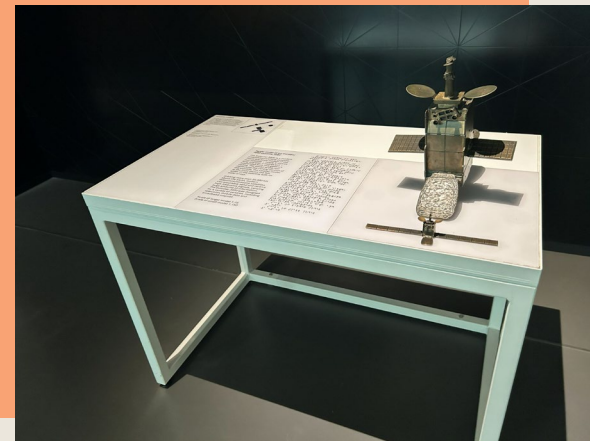
パリ国立自然史博物館・人類博物館



ロンドン自然史博物館



ロンドン サイエンスミュージアム





05

まとめ

視察後の取り組み

常設展示改修の実施

様々な来館者
が利用

海外博物館の
動向調査

どのように
還元していくのか

- ・ 改修業務
- ・ 通常業務
- ・ 館内外

- ◆ 改修業務にあたり、設計業務の一部としてワークショップを実施。
現在の展示室における問題点を改めて洗い出し分析。専門家からも助言をいただく。
設計・施工時の指針とした。
- ◆ 日本館 1 階南翼改修時にも要素を取り入れる。
- ◆ 館内：そのほかにも様々な部署にて取組を随時検討・実施
より組織的な取組として行っていくことが必要
- ◆ 館外：さまざまな機会に少しでも共有・博物館全体として継続的に考えていく。

視察後の取り組み

◆ ワークショップで得られたもの

- ① 展示で**伝えたいこと**の主旨を踏まえた**適切な手法**を選択。
- ② 通常の展示に加え、情報を**補う**ための方法を取り入れる。
- ③ **動作**が制限されるような来館者の状況を想定した設計。
- ④ 観覧の動き・**来館者の注意**がどこに向くのかを踏まえた**動線**。
- ⑤ **サイン・案内**...どのように**理解**されるのかを考えて設置。

◆ 日本館 1 階南翼改修時→解説パネル

多言語：大項目・中項目・小項目までの日英表記

触知図とハンズオン展示の表記の見直し

→**既存のものを活かしたかたちで、今できることを。**

「誰のために」という考え方に終始せず、
その展示で「何を伝えたいのか」を起点に考える。



まとめ

- ◆ まずは、「一緒に」「ようこそ」という気持ちを持つ！
 - ◆ 「だれのために」も大切だが、「何を伝えたいか」を考え、
どうやったら伝えられるか、手段を考える。それが結果として「だれのために」につながる。
 - ◆ それぞれの博物館が抱えている問題は千差万別→答えが違ってても良い。正解もさまざま。
 - ◆ 取組むための体制
 - ・ 数年単位での長いスパンが必要。普段から考えておくことが必要。
 - ・ 予算も加味した上での複数年計画を作成
 - ・ 複数部署で、組織的に考えていくことが必要
 - ・ 専門性の高い職員の配置（研究職だけでなく展示担当も拡充していく必要性）
 - ◆ 継続性
 - ・ 一過性にならないこと、継続して取り組んでいくことが重要
 - ・ 取組みに「終わり」はない。「正解」もあるようでない。考え続けることが必要。
ときには大きな決断もしつつ、一歩ずつ進んでいくこと。
- どんな仕事でも、博物館が「伝えたいこと」「伝えるべきこと」を意識し、自身の仕事が来館者にとって学びの一助になっているという意識を持ち続け、日々の業務に取り組む姿勢。

ご清聴いただきありがとうございました

謝 辞

シテ科学産業博物館

Sabine Tuyaret 様

京都女子大学

生田目 美紀 先生

公益財団法人 カメイ社会教育振興財団 様

全科協事務局のみなさま
来館者・各事業者・関係者のみなさま